

千葉県感染症発生動向調査情報

2018年 第10週 (3/5-3/11) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		10週	9週	8週	7週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	3/5-3/11	2/26-3/4	2/19-2/25	2/12-2/18	2/26-3/4
			10週	9週	8週	7週	9週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	2 0.11	4 0.22	5 0.28	23 0.17
	咽頭結膜熱		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	37 0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	43 2.39	35 1.94	51 2.83	33 1.83	433 3.21
	感染性胃腸炎		60 3.33	79 4.39	55 3.06	59 3.28	513 3.80
	水痘		0 0.00	2 0.11	2 0.11	2 0.11	33 0.24
	手足口病		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	1 0.01
	伝染性紅斑		2 0.11	1 0.06	0 0.00	1 0.06	9 0.07
	突発性発しん	○	9 0.50	5 0.28	5 0.28	8 0.44	42 0.31
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		1 0.06	2 0.11	3 0.17	1 0.06	12 0.09
	インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフル エンザを除く)	↓↓ ↓↓	232 8.29	335 11.96	459 16.39	686 24.50
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	17 0.49
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		1 1.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	60歳代	細菌検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	40歳代	IGRA検査				
結核	女性	20歳代	IGRA検査等	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び先行感染症
結核	女性	20歳代	IGRA検査等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体遺伝子の検出	-	-	-	-

・第10週は、結核5件(38)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(4)、急性脳炎1件(1)、百日咳1件(10)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

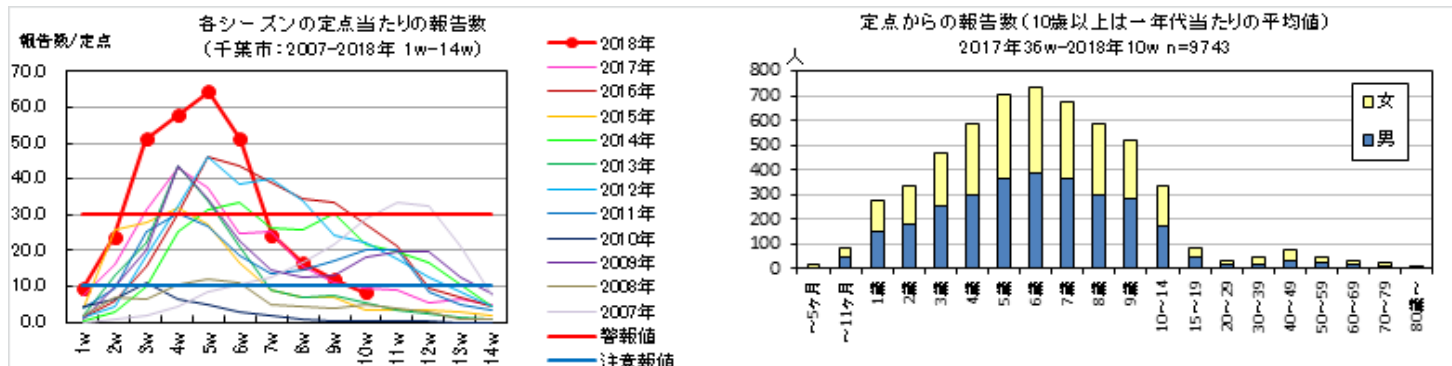
定点当たり報告数 第10週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.39となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。
<突発性発しん> 前週より増加し0.50となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。
<インフルエンザ> 前週より更に減少し8.29となり、流行発生警報終息基準値を下回った。過去10年の同時期と比べると少なめ。

■ トピック ■

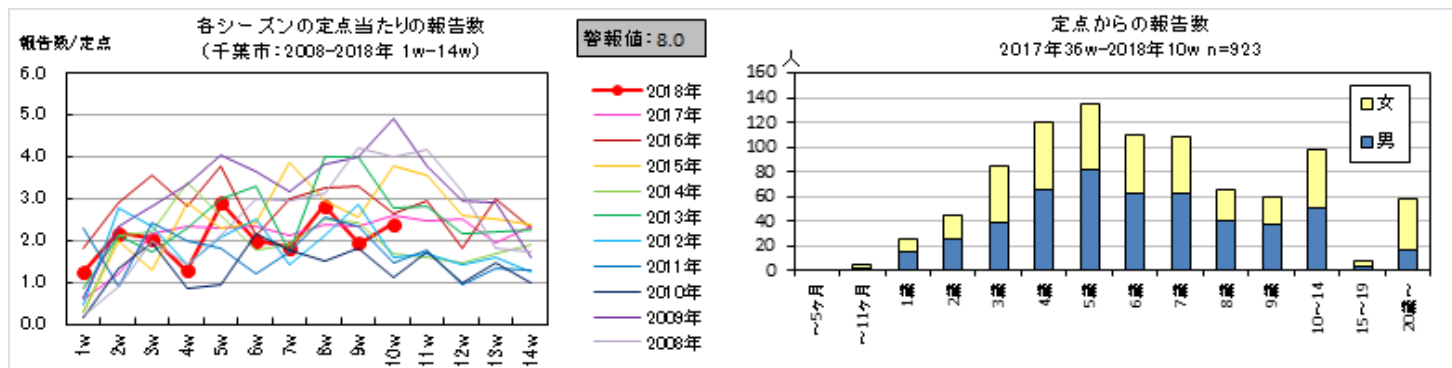
<インフルエンザ>

全国レベルの第9週は前週より減少しましたが、流行発生警報終息基準値(10.0/定点)は上回っています。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では北海道、富山県、秋田県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2018年第10週は前週より更に減少し8.29となり、流行発生警報終息基準値は下回りました。過去10年の同時期と比べると少なめです。区別の発生状況は、若葉区(17.5/定点)で流行発生警報終息基準値を上回り最多で、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。その他の区は全て流行発生警報終息基準値を下回っています。今シーズンである2017年第36週から2018年第10週までの累積報告数(n=9743)によると、性別では男性が50.1%(4882名)、女性が49.9%(4861名)で、年齢階級別の1年代あたりでは6歳(7.5%:731名)、5歳(7.2%:703名)、7歳(7.0%:677名)の順に多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第9週は、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では石川県、山形県、北海道の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2018年第10週は前週より増加し2.39となりました。過去10年の同時期と比べると少なめです。区別の発生状況は、緑区(5.5/定点)で最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第10週までの累積報告数(n=923)によると、性別では男性が54.4%(502名)、女性が45.6%(421名)で、年齢階級別では5歳(14.6%:135名)、4歳(13.0%:120名)、6歳(11.9%:110名)の順に多くなっています。



<突発性発しん>

全国レベルの第9週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では宮崎県で最も多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の2018年第10週は前週より増加し0.50となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルです。区別の発生状況は、緑区(1.0/定点)で最多で、同区の1歳で多く発生報告がありました。2018年第1週から第10週までの累積報告数(n=64)によると、性別では男性が51.6%(33名)、女性が48.4%(31名)で、年齢階級別では1歳(67.2%:43名)、6~11か月(17.2%:11名)、2歳(9.4%:6名)の順に多くなっています。

